

- 4) 競技参加者は、試合中、ベンチにいる限り、コート内の味方競技者に対して声援や、話しかけることができる。
- (2) 監督の権利と義務
- 1) 監督は、試合中、ベンチの記録席に最も近い位置に座っていなければならない。
 - 2) 監督は、競技者交代またはタイム・アウトを要求することができる。しかし、競技者としてコート内にいるときは、その権利を失う。
 - 3) 監督は、いかなる場合でも審判員の判定に対して、異議を申し立てることは許されない。
- (3) キャプテンの権利と義務
- 1) ゲーム・キャプテンは、コート内にいる間は、競技の中断中に主・副審に対して
 - ①競技者交代またはタイム・アウトの要求
 - ②競技規則適用の解釈についての質問
 をすることができる。
 - 2) チーム・キャプテンは、試合中、ベンチにいる間は、その権利を失う。この場合、コート内の競技者から代理のゲーム・キャプテンを選び、自身の交代時に主審に届けなければならない。
- (4) 競技者の服装
- 1) 競技者のユニフォーム（上下）は、清潔で、チームにより統一された色と同じ形のものを着用しなければならない。
 - 2) 競技者のユニフォームには、胸部と背部の中央に、1から8の番号を付けなければならない。番号は、ユニフォームと異なった色で、胸部には最小限10cm(小学生の部は5cm)、背部には最小限15cm(小学生の部は10cm)の高さのものを着用する。字幅は、2cm以上とする。
 - 3) キャプテンは、ユニフォームと異なった色で、胸部の番号の下に、長さ8cm、幅2cmのマークを付ける。

(注 解)

スポレク祭、ファミリーフェスティバルなどの全国大会では、年齢、性別によって番号を指定することがある。

Ⅲ 試合の準備と進行

1. キャプテンのトス

公式ウォーム・アップに先立ち、主審は両チームのキャプテン立会のもとにトスを行う。トスに勝ったチームのキャプテンは、サービス権またはコート内のいずれか一つを選ぶ。

最終（第3）セットが行われる場合、主審はもう一度トスを行う。

2. チームの公式ウォーム・アップ

試合開始前に、試合が行われるコートでネットを使って、それぞれ3分間の公式ウォーム・アップをすることができる。なお、両チームのキャプテンが、同時に公式ウォーム・アップをすることに同意した場合は両チーム合同で6分間することができる。

3. チームのライン・アップ・シート

(1) ファミリー・トリムの部

各セットの開始前に、監督は、ライン・アップ・シートにチームのスターティング・ライン・アップを記入して、副審もしくは記録員に提出しなければならない。

(2) 小学生の部

- 1) 各セットの開始前に、監督は、サービス順とスターティング・ライン・アップを記入したライン・アップ・シート（第2図）を、副審もしくは記録員に提出しなければならない。
- 2) サービス順は、競技者の位置とは関係なく決めることができる。そしてその順序は、そのセットを通して変更することはできない。

(第2図)

セット	
チーム名	
サービス順	競技者番号
1	
2	
3	
4	
サイン	

4. 競技者の位置とローテーション（第3図）

小学生の部では、競技者は、フロントやバックなどの位置による一切の制限を受けずに、自由に動いてプレーすることができる。また、サービス権の移行による位置のローテーションはない。

(1) 位置

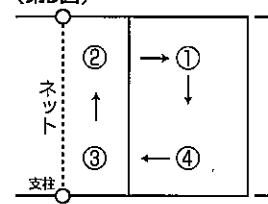
- 1) ネットに沿って位置する2人はフロントの競技者で、ポジション③（レフト）と②（ライト）の位置を占める。他の2人はバックの競技者で、ポジション④（レフト）と①（ライト）の位置を占める。
- 2) サービスが打たれた瞬間に両チームは、サーバーを除いてバックの競技者是对するフロントの競技者より後方に位置するとともに、バックの競技者同士やフロントの競技者同士は、それぞれ自分のポジションのサイド・ラインに近く位置しなければならない。ただし、バックの競技者が対角となるフロントの競技者より前方に位置しても反則とはならない。

- (3) サーバーを除く両チームの競技者は、サービスが打たれた瞬間にはコート内に位置していなければならない。サービスが打たれた後は、どのように移動してもよく、プレー上の制限はない。

(2) ローテーション

- 1) サービスをレシーブするチームがサービス権を得たとき、そのチームの競技者は、時計回りに一つずつ位置を移動する。
- 2) ローテーションの順は、スターティング・ライン・アップにより決定され、そのセットを通じて変更することはできない。

(第3図)



(注 解) 競技者の位置とローテーションについて（ファミリー、トリムの部）

①競技者の位置は、床面に接している両足の位置によって、決定される。即ち、

- 各フロントの競技者の片足の少なくとも一部は、それぞれに対応するバックの競技者の両足よりも、センター・ラインの近くに位置していること。
- ライト（レフト）に位置する各競技者の片足の少なくとも一部は、同じラインのレフト（ライト）の競技者の両足よりも、ライト（レフト）のサイドラインの近くに位置していること。

②第3図で○の中の数字はサービス順も示しているが、各セットの始めにレシービング・チームだった方は、サービス権を得たときローテーションするので、2番から打つことになる。

5. 競技中断の要求

(1) タイム・アウト

各チームは、1セットにつき最大2回のタイム・アウトが認められる。このタイム・アウトは1回につき30秒とする。タイム・アウトの間、コート上の競技者は、ベンチ近くのフリー・ゾーンに出なければならない。

(2) 競技者の交代

- 1) 各セットの競技者交代は、4回（4人）以内とする。ただし、常にⅡ-1の条件を満たしていなければならない。
- 2) 交代競技者は、1セットに一度だけスターティング・メンバーと交代して競技に参加できるが、競技から退く場合は、同じ競技者として交代できない。
- 3) 競技者交代は、2人から4人の競技者を同時に交代させることもできる。
- 4) 競技者交代は、サービス中の競技者に対しても許される。
- 5) 小学生の部は、交代競技者のサービス順は、被交代競技者の順位に入る。
- 6) 負傷の場合、1正規の競技者交代をする。2正規の交代ができない時は例外的な交代をする。例外的な交代とは、1) 低年齢者に代わり高年齢者の同性の者が交代する場合と、2) 同じ条件の競技者交代が終了している場合、3) 4回の競技者交代が終了している場合の3つのケースを指し、これらの場合、同じ条件の者と（Ⅱ-1の条件）の者と交代する。ただし、負傷した競技者は、その試合が終了するまで再度コートにはもどれない。また、例外的な交代は競技者交代の回数には含まない。

(注 解)

①スポレク祭、ファミリーフェスティバル、シルバーフェスティバル等の全国大会では、同年代、同性別の競技者同士の交代に限られる。ただし、小学生同士の交代にはこの制限はない。

②全国レディース交流大会、全国メンズ交流大会では、「低年齢層に代わり、高年齢者の同性の者が例外的な交代をする」の項目は適用しない。

(3) 要求の方法

- 1) タイム・アウトおよび競技者交代は、ボールがデッドのとき、サービス許可の吹笛前に、公式ハンド・シグナルを示して要求しなければならない。それが競技者交代であれば、交代者と被交代者の各番号を告げて要求する。
- 2) 2人以上の競技者交代をする場合は、要求の際その数を示さなければならない。
- 3) 競技者交代を要求したチームは、競技が再開されない内に連続して、競技者交代を要求することはできない。

(4) 不当な要求

- タイム・アウトや競技者交代の次のような要求は不当であり、同一チームが、同一試合で繰り返した場合、その都度反則となる（一度目は口頭で注意）。
- ①ラリー中、またはサービス許可の吹笛と同時に吹笛後に、要求したとき。
 - ②要求する権利のない者が要求したとき。
 - ③競技者交代を、競技の再開を待たずに連続して要求したとき。
 - ④規定回数を超過して要求したとき。

(注 解)

不当な要求であっても、競技に影響を及ぼさず、また、試合の遅延とならないならば拒否される。